

第2章

架け橋期の子どもの姿と指導のポイント

第2章では、5歳児から小学校1年生のそれぞれの時期における「ねらい」、「育成を目指す（育みたい）資質・能力」、「架け橋期の指導の重点」、「家庭との連携」、「多様な育ちへの配慮」を項目ごとにまとめました。見開き1頁にまとめて記載してあることで、幼稚園・保育所では、現在の子どもの姿から小学校の学習活動を通して成長していく子どもの姿等が分かります。小学校では、幼稚園・保育所において遊びや生活を通しての中で学び育ってきた内容かを理解する手助けになります。<or>小学校では、幼稚園・保育所において、子どもたちが遊びや生活を通してどのように学び育ってきたかを理解する手助けになります。

【例 5歳児】

【ねらい】

各時期のねらいを記載しました。
ここに記載している時期は目安であり、一人一人の発達や学びの状況には個人差があることに留意して、その時期にとらわれることなく、子どもの発達や学びの状況に即した対応した適切な指導が大切

【「幼児教育(あるいは小学校教育)において育みたい（育成を目指す）資質・能力」】
子どもの姿を三つの柱ごとに整理、記載しました。
5歳児は、関連する5領域を表示しています。

進級の喜びを感じ力を発揮しようとする	
4～5月	
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> 新しい環境に主体的に関わり、関心をもった様々な遊びに取り組む 自分なりに関心をもったことや友達や保育者との関わりをきっかけに、学級のつながりを感じる 進級の喜びを感じ、年長児としての生活に意欲的に取り組むとする
知識及び技能の基礎	<ul style="list-style-type: none"> 様々な素材や仕組みなどの面白さを感じる 新しい用具や教材と出会い、扱い方を知る 様々な体の動きや身のこなしを楽しみ、自分なりにやってみる 新しい環境に関わりながら、安全な使い方など必要なことに気付く
思考力・判断力等の基礎	<ul style="list-style-type: none"> イメージやめあてに向かって、材料や用具を選び、実現しようとする 様々な素材の感触を楽しんだり、その特性に気付いて試したりする 思いや考えを、自分なりに相手に伝えたがうとする 言葉などで表現したことが、友達や先生に伝わる喜びを味わう
学びに向かう力・人間性等	<ul style="list-style-type: none"> 興味をもったことや不思議に思ったことに関わり、知ろうとする 新しい環境や年少の幼児に接する中で、年長児としての喜びや自覚をもつ 友達と関わり遊びや活動の楽しさを感じ、一緒に進めようとする
指導の重点	<ul style="list-style-type: none"> 進級の喜びに共感したり、新しい環境に戸惑いを受け止めた後、それを乗り越え、安心して新しい生活に取り組めるように 慣れた道具や用具を準備し、主体的に環境に関われるようにする
家庭との連携	<ul style="list-style-type: none"> 進級による喜びや不安など保護者の思いに共感し、園での幼児の様子を具体的に伝えるなど、一緒に幼児の成長を支えていく姿勢を示す 1年間の園生活の振り返りや内容、幼児の育ちを具体的に伝え、年長の1年間や就学に向けての見直しを図るようになる
多様な育ちへの配慮	<ul style="list-style-type: none"> 個別の支援が必要な幼児について、昨年度までの放課や今後の方向について園内で話し合いを行い、個別指導計画等を作成する 新しい環境にそれぞれのペースで慣れていけるように、個々の興味関心を活かした環境構成や支援を工夫する

【指導の重点】

架け橋期の子どもの指導の重点を記載しました。架け橋期の指導を幼児期から小学校就学以降の育ちの連続性を意識してもって指導を行う参考になります。

【家庭との連携】

【多様な育ちへの配慮】

本区の教育施策の重点でもある「家庭との連携」「多様な育ちへの配慮」に視点をあて、架け橋期の教育におけるポイントを記載しました。子どもたちが健やかに成長していく過程で、基本的な生活習慣や人間性・社会性・考え方などは家庭生活の中で育ちます。ここでは、架け橋期の子どもの姿を見据えて、家庭との連携、多様な子どもの育ちへの配慮のポイントを記載しました。

第 3 章

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」から見る実践例

第3章では、練馬区内の幼稚園、保育所、小学校の実践例をまとめました。

ここでは、子どもたちの遊びや活動の様子、や環境構成の工夫を写真で紹介し、遊びや学習活動から読み取れる見られる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を記載しました。

教員・保育士と子どもとの関わりや環境の構成の工夫改善・充実、架け橋期の指導・援助のポイント等、それぞれの幼稚園・保育所・小学校の教育活動の実情に合わせて、ご活用ください。